

第23号 20円
昭和46年2月25日
内容

文学史の理想	1
文壇の発展	2
年次報告	3
開館五周年記念	4
千人会	5
ピアノ	6
第30回大会	7
見えない	8
第32回大会	9
第1回大会	10
開館五周年	11
業務利用	12

セミナー・ハウス

SEMINAR HOUSE NEWS

発行

財団法人 大学セミナー・ハウス
 (所在地)
 東京都八王子市下柚木
 電話 0426-76-8511~2
 (東京事務所)
 東京都中央区日本橋本町3の3
 三井銀行本町支店ビル5階
 電話 東京(270)4431
 振替口座 東京74590番
 編集・発行人 飯田宗一郎
 製作 中央論議事業出版

現在私は「日本文学史」を書いている途中です。日本文学で書かれたすぐれた文学史を英訳せずに、なぜ自分で書くかという、私はアメリカの読者のことを考えて書くつもりだからです。そして日本文学は研究の対象になる程の値打のあるものだという前提があるからです。

私は日本語を小さい時から話す人間ではないので、日本人が当然のこととして見過ごしてしまう点に気がつくこともあるのではないかと思います。

読者の多くは日本語がわからないので、日本人が書くように原文を引用できません。英訳を通じて実例をあげ証明したいという立場ですが、日本語そのものもともと日本文学を生んだと思わなければならぬのです。しかし日本の国文学者は、国語そのものにそれ程関心を持っていないように思います。

西洋文学者ならまず気がつくことは、日本の詩には、西洋で一番使用されている三つの手段がない、つまりどのように詩と散文の区別をするかということです。

第一に韻をふむことは、総ての言葉の語尾がアイウエオのいずれかになる日本語の場合、全く無意味です。

第二に英語に代表されていますが、言葉のストレスが日本語にはありません。

第三に長音と短音の組み合わせ

ですが日本語にあっても大体それは漢語で、しかも短歌には使用しないのです。

五七調というシラブルの数だけをメドにしてその区別をしたということは、世界文学の立場からいうと非常に珍らしい例ではないかと思えます。更に和歌には大和言葉以外の大衆の言葉は絶対使わないのです。毎日の楽しみを書こうと思った橋暉覧でも、今日の煙草はおいしかったとは書けないのです。そして抽象的な言葉の多くは外来語なので、意義、道徳、宗教

といった観念が頭の中にあっても禁じられていましたから、和歌には知的な面が非常に少ないのです。

ヨーロッパの詩人たちの論評を讀むと、曖昧は非常に悪いこととされていますが、日本語の場合には意識的に曖昧を探し、その面白さを發揮しようとしたのです。

私の常識では芭蕉の「かれ朶に鳥のとまりけり秋の暮」の情景は一羽の鳥が一本の枯枝にとまっと思っただけですが、英一蝶の掛物を見たら八羽の鳥がいるんな



日本文学史の構想

コロンビア大学教授
ドナルド・キーン

わざわざ万葉仮名、変体仮名が使われ、行間には罫が入っています。これも本の一部分と思われたからでしょう。このような日本人の文学のセンスは英訳ではどうにもなりません。

敬語や男性語、女性語などは文学作品と密接な関係があります。また非常に云いがたいことですが、日本語は仲間の言葉になりがちで、俳人でなければその句の良さがわからなかったり、また黄表紙や洒落本などは相当専門語に通じていなければ鑑賞できないので

枯枝に止まっていたのです。(笑) もっとややっこしいのは、純粹の日本文学はなるべく主語を省くので、場合によっては読者に意味がわからなくなることもあります。日本では仏教関係の書物以外に、桃山時代まで印刷された版は一つもないのですが、活字にする技術を買ってもそれをさけて、写本のままで保存したということには、日本人は書物の意味より美術品としての良さに非常に愛着をもっていたと思うほかないのです。

谷崎潤一郎の春琴抄の初版本には

す。普遍性のある文学でなくとも、上手に特殊な言葉の味わいをつかまえたとするれば、それだけで作品が成功するのです。英訳となると、能に欠くことのできない「候」も、また「ございます」とか「ござりんす」などが全部ごとと英語になると思うと本心に情ない話です。(笑)

日本文学ほど評論の芸術が発達し、その数も多い文学は少ないと思います。古今集(上)にみるような、詩の本質に触れる論評は、同時代の英国やフランスには見当らないし、世阿弥の謡曲の論評は、世界の評論文学の中で最高峰の一つだと私は思います。しかし残念ながら当時の人にはあまりにわかり切ったこととして全然言及していかない面がいろいろあるのです。

芭蕉の俳論にしてもごろんについては全く触れなかったし、現代までそのような問題に言及する国文学者はいたって少ないのです。

芭蕉の句「夏草や兵共が夢のあと」の素晴しさの一つは、つわものどものもつオとアの重い音の響きです。侍たちや兵隊たちでは、芭蕉の彼らに対する郷愁や思いやりは出てこないでしょう。しかし「菊の香や奈良には古き仏達」の「仏たち」は素晴しいでしょう。この場合タチの音でちょうどいいのです。

また「閑さや岩にしみ入る(る)蟬の声」では、シミイルは蟬そのもの

Beautiful things

足場もたしかに きものとの出会い

開館五周年記念募金伸びる

法人と個人の支持をうけて

目標額 一億八千万円達成を期す

法人(申込額) 七七、一〇〇、〇〇〇円
個人寄付(受領額) 九二、〇〇〇円

昭和四五年四月二〇日から向う一ヵ年間に一億八千万円を募金する計画のもとに、大蔵大臣の寄付金免税の指定許可をうけた。

募金は脚でかせぐといわれる。専務理事の日記によれば、五月二

六日には増田館長とともに、キリンビル、野村証券、朝日生命、東京瓦斯、日産自動車の社長さん達を訪問している。六月九日には、高村理事長、増田館長とともに、富士銀行、三菱銀行、東京証券業協会、鹿島建設の頭取や社長さんを歴訪している。一日のうちに大物

社長や頭取をセミナー・ハウスの三人男が顔を揃えて訪問するまでにこぎつければ、募金は半ば成功である。

昭和四六年一月末現在で申込みをいただいた団体及び会社は左記の通りである。申込順に列挙しその協力に深甚の敬意を表し、心からの感謝を捧げたい。

- 日産自動車株式会社
- 石橋財団(ブリヂストン)
- 東京瓦斯株式会社
- 大阪瓦斯株式会社
- 東邦瓦斯株式会社
- 日興電気工事株式会社
- 関東百貨店協会
- トヨタ自動車工業株式会社
- 麦酒協会
- 出光興産株式会社
- 東京銀行協会
- 電気事業連合会(九電力)
- 三菱グループ
- 日本石油株式会社
- 生命保険協会
- 富士写真フイルム株式会社
- 全国地方銀行協会
- 信託協会

全国大学教授連合解散に伴う残余財産一四〇万円の受贈

戦後、国公立大学の教授が加入する全国的組織が生まれた。この連合から研究者の待遇改善とか大学設置基準などに関する要望や提言などが行なわれた。その後大学側にも、学術、教育の分野にも、独自の団体ができるようになり、全国大学教授連合の存在理由が問われるようになった。

昨年この連合が解散され、同連合の理事である大浜信泉先生などの提案で、大学セミナー・ハウスの提案で、大学の残余財産を譲渡するに適當な法人であるとの認識によるものと察しられる。この貴重な寄付金は、正確には一、四〇三、四七七円で、本法人は最も有意義に使わせていただくこととし、高村理事長が有難く受領された。

千人草

ここ多摩の丘に咲く

千人草

八王子は徳川末期、千人同心隊が生まれた土地である。同心の一人、〇〇〇人がセミナー・ハウスの維持に参加して下さることによって、セミナー・ハウスの種は、時代を超えて永続し、向上するに違いない。腐敗を防ぐものは塩、

(一頁より)
のでしょう。そのイ・イ・イというののは蟬の声です。芭蕉は意識的に書いたに違いないと思えますが、私の知る限りその説明をした人はいないのです。

もう一つ指摘したいことは、日本には *poetry* が無いことです。和歌とは全く関係なく俳句があり、連歌があり新体詩がある。歌人は俳諧で自分の美しい言葉遣いを汚すことはなかったし、俳人は和歌を詠んでも、自分の書いていることと関係がないというふうにと、それらの間にはつながりがないと思われていたようです。

従って日本人はどういう姿勢で詩を書くかという一般の詩論が最近までなかったのです。古今集の(上)の説明では悲しくなると和歌を詠むということがありますが、喜ぶ場合にはまず詠まないので、それは何か日本人の心理と関係があるのではないかと思えます。

現代文学の課題は、一つは作家が日本の伝統をどれ位背負っているかということです。よく現代の作家は断絶という言葉を使って過去の文学とは何も関係がないということを言いますが、日本人が日本語を使っている限り断絶はあり得ないのです。といつてもやはり西洋文学の影響が強いことは否定できないので、ある意味では世界文学の一部分と考えた方がいいかもしれません。

安部公房が人物や場所にほとんど名前を与えていないのは、明らかに国際的な文学をねらっているからに違いないのです。しかし安部さんさえやはり日本語を使っています。文章も決して英文に似ていません。そういう意味では「砂の女」や「友達」という特殊な作品の場合でも日本文学の長い伝統を認めているのです。

三島由紀夫の場合は積極的に伝統を自分の作品の中に入れていきます。わざと不断誰も使わないような旧仮名遣いで、むずかしい漢字や、むずかしい昔の歌や散文の引用を入れて、なるべく昔の文学とのつながりを守りたいという立場に立っているのです。日本文学は私に言わせると西洋化されたというよりむしろ現代化されたという方が正しいと思えます。私は近代文学や現代文学も、日本文学の一つと考え、同じような基準、つまり個人の鑑賞力に基づいて書こうと思っています。一人で文学史を書くのは極めて無鉄砲な仕事です。専門家にそれぞれの時代を任せて、それを私がまとめた方がいいのではないかと思われすが、日本文学全体に今まで知られていなかったような統一性、今まで十分認められていなかった良さが出るのでないか、という希望を抱いて書いているのです。

(第30回大学共同セミナー)ゲスト講演の概要・文責編集者

Good Work =

わが連帯—協力の この参加—美し

である。金額の大小よりも塩としての効能が大きい。

僅かであるが、毎号新しく加入下さった同心の友をご紹介できることは大きな喜びである。人それぞれの人生観がおりりのようであり、毎年出するのは、かなわんとされる方と一度に沢山とられるより、毎年少しずつ続けるのが、気持ち通ってよろしいといわれる方がおられる。

東京には東京人はいるが、都会人はいないといわれる。都市の倫理がないという意味である。そこには連帯がなく、お互いの約束とがない。千人会は大学人の連帯というべきか。

新年早々のご入会を心から感謝いたします。

現在会員
五三五五人 大学人 三九六人
社会人 一三九人

- 第12回 報告 (申込順)
- C 慶応義塾大学教授 小川 昌子殿
 - B 日本大学教授 名東 孝二殿
 - C 立教大学助教授 村田 全殿
 - C 上智大学大学院生 村田 達子殿
 - B 日本産業心理劇協会 佐藤 豪殿

ピアノノ募金目標達成

ご協力ありがとうございました

皆さま方からの絶大なるご協力によりまして、購入金額二九万円に達しましたので、ヤマハピアノのU3F型のものを求め講堂に備え付けました。記憶すべき五周年の記念品となりました。ここに感謝をこめてご報告申し上げます。

—その後のご寄付の状況—

一〇、〇〇〇円	上智大学英語科学会殿
一〇、〇〇〇円	立教大学 水本ゼミ殿
三、〇〇〇円	東京女子大学同窓会 坂井 淳殿
五、〇〇〇円	飯田専務理事殿
六、〇〇〇円	第32回大学共同セミナー参加 高橋 滋殿
二一、五〇〇円	第32回大学共同セミナー参加 乾 崇夫先生外九名殿
四、九九八円	第32回大学共同セミナー参加 学生一同殿
五、〇〇〇円	桐生富久殿
八六七円	国立楽器殿
二九、〇〇〇円	合 計 (ピアノ購入相当額)
前回発表分	二〇三、六三五円
合計 (ピアノ購入相当額)	二九〇、〇〇〇円

その後になってピアノノ募金としていただいた左記の方々にも厚くお礼申し上げます。なお今後の分については、はじめの目的とは違いますが、同じ五周年記念のご寄付ですから、セミナー・ハウス五周年史の資金に使わせていただきたく、ご了承の程あわせてこの紙面を借りてお願い申し上げます。

〔五周年史出版基金〕

二一、〇〇〇円	横浜市 学生母堂 岩橋嘉子殿
一〇、〇〇〇円	横濱市 尾崎 茂殿
二、〇〇〇円	青山学院大学教授 尾崎 繁樹殿
三、〇〇〇円	明治大学教授 宮崎 繁樹殿
三、〇〇〇円	詩人 藤富保男殿

寄贈図書

昭和45年7月~11月

- 「近代日本の農村的起源」 大塚久雄殿
- 「科学・教育・随想」 玉虫文一殿
- 「岩波講座 世界歴史」第五、一、一七、一八、二五巻 岩波書店殿
- 「Webster's New World Dictionary」 中村タケオ殿
- 「現代科学論」 「逆説としての現代」 「社会変革と科学」 「海と人生」 「日本の震災」 「原子力と政治」 山内恭彦殿
- 「外交の体系分析」 内山正熊殿
- 「アメリカに於ける秋山真之」 島田謹二殿
- 「土着と情況」 「近代の奈落」 桶谷秀昭殿
- 「国際問題」 一二四~一二八号 日本国際問題研究会殿
- 「社会学論叢」四九号 笠原正成殿
- 「職業の倫理」 尾高邦雄殿
- 「日本人の宗教」 井門富二夫殿
- 「講座 アメリカ文化」第五、六巻 アメリカ研究振興会殿
- 「歴史の研究」九、一二、一四巻 「昭和大蔵省外史」 佐藤喜一郎殿
- 「フリードリヒの遍歴」 神田芳夫殿
- 「ロマ書講義」 「無教会精神の探究」 「真理の継承」 「現代の危機はどこにあるか」 「真理の人」 「無窮花と桜」 「流れに抗して」 「アジア宗教と福音の論理」 「原野の子らと」 高橋三郎殿
- 「世界の名著」第五、一五、二〇、二五、三三、三四、三六、五一、六〇、六六巻 中央公論社殿
- 「新教育原論」 田中未來殿
- 「人間と適応」 木原弘二殿
- 「オリエント」一〇、一一巻 日本オリエント学会殿
- 「文化人類学と言語学」 池上嘉彦殿
- 「工学院大学研究報告」第二七、二八号 工学院大学図書館殿
- 「西洋美術史要説」 「イギリス美術」 友部 直殿
- 「大学基準協会々報」二〇号 「法政」 「高等教育の改革に関する基本構想」 山本敏夫殿
- 「多品種少量生産システム」 「経済性工学」 長谷川幸男殿
- 「にっぽんの祭り」 桜井徳太郎殿
- 「私企業の将来」 名東孝二殿
- 「音楽とイマジネーション」 塚谷晃弘殿
- 「是非の帽子」 「カミングス詩集」 藤富保男殿
- 「わが友に語る量子力学」 江沢 洋殿
- 「儒家思想から見た古事記の研究」 田所義行殿
- 「エスプリとユーモア」 田代伴子殿
- 「ニーチェ」 吉田園子殿
- 「出入国管理」 宮崎繁樹殿
- 「教育をたずねて」 西村秀夫殿
- 「科学史のすすめ」 村田 全・広重 徹殿

第30回 大学共同セミナー

夏季長期セミナー……初めての試み……

島田先生の講義もさわやかに……

主題 再検討・近代の日本文学

期日 昭和45年7月30日～8月3日(四泊五日)

△全体講義▽

日本近代文学のひとつの見かた

東洋大学教授 島田 謹二氏

△ゲスト講演▽

I 日本文学史の構想

コロンビア大学教授

ドナルド・キーン氏

II 日本近代詩私観

詩人・明治大学助教授

大岡 信氏

△セクシオン演習▽

A 幕末維新期における政治と文



講義中の島田先生……情熱をこめて

立教大学助教授 前田 愛氏

B 明治の精神―透谷と漱石

東洋大学助教授 桶谷 秀昭氏

日本伝統詩の精神―維新期から

茂吉・犀星へ

評論家 村上 一郎氏

C 青年海外と日本の近代

東京大学助教授 小堀桂一郎氏

D 近代日本の自叙伝文学―個我

と社会と世界

東京大学助教授 芳賀 徹氏

E 内村鑑三における世界と日本

国学院大学講師 太田 雄三氏

F 日本近代文学と女性

早稲田大学助教授

子安美知子氏

鶴見女子大学助教授

G 日本近代詩における「モダニ

ズム」

井村 君江氏

―戦前―

慶応義塾大学助教授

鍵谷 幸信氏

―戦後―

詩人 藤富 保男氏

△参加学生▽

一一五名(うち女子七三名)

東京女大(一〇)、東大(六)、慶大(五)、日本女大(五)、東洋大(五) 鶴見女大(五)、津田塾大(四)、中大(四)、成蹊大(四)、横浜国大(三)、一橋大(三)、青山学院大(三)、奈良女大(三)、国学院大(三)、聖路加看護大(三)、教育大(二)、明大(二)、上智大(二)、神奈川大(二)、埼玉大(二)、学芸大農工大、東工大、外語大、お茶の水女大、日大、武蔵大、明治学院大、東経大、独協大、静岡大、国立音大、駒沢女子短大、帝塚山学院短大、実践女大、学習院大、専修大、武蔵野美大、弘前学院短大、聖心女大、中央学院大、昭和女子短大、成城大、国士館大、立命館大、同志社大、大妻女子短大、函館大谷短大各一名(五二大学)

セミナーハウス賛歌も誕生

夏休みは、大きな団体が比較の長期にわたって利用するので、共同セミナーの日程をとるのが窮屈なほどであるが、今年、年度当初に年間計画をたて、四泊五日の夏季長期セミナーを初めての試みとして実施した。

主題も、再検討・近代の日本文学と題し、近代の日本とは―ことに文学の上での近代日本とは―何かを常識の図式や学校教科書の教えるところを離れて、考え直してみよう、という意欲的なセミナーが計画された。島田謹二先生の全体講義を柱にドナルド・キーン、大

岡信両先生をゲストに配し、また大学外から村上一郎、藤富保男の両氏を招くなど、多彩な編成は、芳賀徹先生が精力的に取り進めてくださったものである。

国文学史の枠を捨て近代日本文学の作品を、諸外国との関連、対比において、あるいは新しい分析法に照らして見なおすとき、そこにどんな独自の価値が見いだされるのか―藤村・漱石・鷗外の文学に対して再評価をうながす、島田先生の講義は、延々四時間に及んだが、先生の名調子に、参加者は完全に魅了されていた。しかもありきたりの図式にまるめられてはいけないうと、彼らの作品について、ショッピングな種アカシをさ

れるお話は、このセミナーならでは



『見えない大学』の話

鶴見女子大学助教授 井村 君江

このセミナーが機縁となつて、藤富先生の作詞になる「大学セミナー・ハウス賛歌」が誕生したことも、書き落すことのできない後日談の一つである。

大学が矛盾を抱えていると言え、大学自体(不思議なことに教授と学生以外の人々のことらしいのだが)が深刻に悩んでいるように聞えはよいが、結局は一方的にゆがんでしまっているということではないだろうか。紛争当時、皆が随分真剣に考えたのにあまり事態が改善された様子も見えないのは、矛盾でなくゆがみだからである。仲間たちでこんな話をしていろいろうちに、こういう説が出た。大学というのはもともとその理念が先にできて、次にそれを満すべく実体が徐々に形成された。ところが今の日本の大学にちゃんとした理念があるだろうか。白い鉄筋コンクリートのビルを造り、教授の名簿を作成し、学費と規則を定めて学生を集めても、それは大学の肉体を作ることであって、その精神とは関係ない。理念なき大学ということが問題の根本にあるならば、逆に理念だけの大学というものを考えてみたらどうだろうか (五頁へつづく)

第32回 大学共同セミナー

主題 社会と交通

期日 昭和45年12月4・5・6日

△全体講義▽

I 今後の交通政策

東京大学名誉教授

今野源八郎氏

II 交通の環境と技術

東京大学教授 八十島義之助氏

△セクショーン演習▽

A 今後の物資輸送

成城大学教授 岡田 潔氏

B 日本をとりまく国際交通

慶応大学助教授 藤井弥太郎氏

C 都市交通

東京大学教授 井上 孝氏

D 新しい交通手段

東京大学教授 中口 博氏

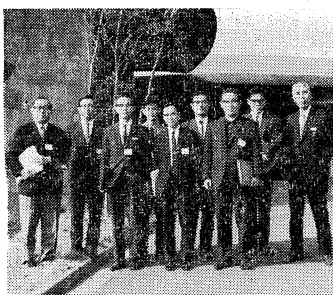
東京大学助教授 乾 崇夫氏

東京大学助教授 新谷 洋二氏

E メガロポリスの交通体系間と

過疎地域の交通

東京大学助教授 岡野 行秀氏



指導された先生方

(ゲスト)

日本航空調査開発室次長

津崎 武司氏

△参加学生▽

七五名(うち女子一五名)

早大(一三)、日大(八)、東大(七)

一橋大(五)、中央大(四)、ICU

(三)、都立大(三)、東京女大(二)

日本女大(二)、共立女大(二)、東

工大、教育大、電通大、横浜国大

明大、武蔵大、慶大、東洋大、津

田塾大、明治学院大、立大、東京

理科大、立正大、武工大、法大、

国際商科大、独協大、神奈川大、

関東学院大、聖心女大(各一名)、

東洋工業(三)、日本航空(一)

△主題の主旨▽

人間の物質的な生活を支える基

本的要素を三つだけあげれば、そ

れは衣・食・住になる。しかし

これと同じ程度に重要な第四の要

素がある。それが「交通」であ

る。人間が共同生活をおこない、

社会を形成したその最初の時点か

ら人類は移動することをおぼえて

いる。隣の集落との接触、あるい

は交易が社会をひろげていった。

そして今日では地球上といわず海

の底から、宇宙空間までがすべて

の人と物の動線でおおわれている。またこのようにならぬ動線の

交錯がなくては、もはや人間は生活を営めず、進歩もない。交錯する移動、すなわち「交通」が第四の要素たるゆえんである。

これだけ基本的な「交通」には、当然のことながら能率が要求され、技術も取り入れられて、多数が一度に速く移動するようになる。このことから適応性の不調和がおこり、交通事故が頻発する。また都市化とともに、移動する主体そのものが爆発的にふえ、能率はますます低下する。

かくして二〇世紀文明の盲点としての「交通問題」がクロローズアップされてくる。およそありとあらゆる視角から研究され論評されながら、「交通問題」が解決しないのは何故か。もちろん対策をたて、執行する立場に問題もあろう。しかし問題の根源が必ずしも充分突きつめられず、解決に導く論理がまだ不分明であることも事実である。結局「交通問題」の真の問題は、それが体系化した科学として捉えられていない点にあるのである。

「交通」の主体である人・物が何故移動しようとするのか。それはまさに社会科学であり、人文科学である。また交通が如何なる技術手段により形成されるか。これはまさに自然科学、工学である。そしてこの両者は独立に存在するのでなく、総合されたところに交通の科学がなくてはならない。

* * *

(四頁より)

か。大学の理念が学問の精神と重なり合うとすれば、その一番基本になるのは知的好奇心 (Intellectual Curiosity) であろう。ではそれをまず塔の上にかかげておいて、実際にそのような大学を作るプランを考えてみる。目に見えないものの方に本来の目的がある以上、「見えない大学」(Invisible University) と呼ぶのがよいと名前まで決まった。

資格は第一に知的好奇心が充分にあること、第二に学問のいづれかの分野の何かを提供できること、この二つである。あるいは初心の者たちは、オブザーバーの形ではじめは参加するということになるかも知れない。基本的な活動は、やはり勉強会、読書会ということになるだろう。となれば「見えない大学」とは、参加者一人の頭に浮んだ一つの疑問、興味、好奇心を何人かの人々に伝達し、それを共有し、発展させるシステムだということになる。どの学問においても重要なのは過去に獲得さ

* * *

岡野先生をオーガナイザーとするプログラムの最後のセッションインターセクションでは、各セッションの報告者には、正面の席に着いてもらった。学生が主役という、この空間設計もあずかってかムダのない核心にふれた応酬が飛びかいた生産的な討論が行なわれていた。

全体講義の今野先生は、レジメにビブリオまで添え、さらに沢山の資料を配られて懇切に交通政策の推移と将来の展望を説かれてい

れた知識の山ではなく、新しい知識、新しい方法が形成されていく過程そのものではないだろうか。とすると、その過程のみにポイントをおくことは、大学の理念そのものの具象化であろう。従ってこの大学の過去を否定しなければ先へ進めないような不運な分野、芸術の分野からさえも、その精髓を生きたまま引き出して利用することができればよいのである。

といったわけで、「見えない大学」は構想のまま実現を見ずにあつたところ、この夏大学セミナー・ハウスの共同セミナーに参加する機会があつた。大学の枠をとり払って各方面の熱意ある先生方を中心に、知的好奇心に溢れた学生たちが百数十名集まって、五日間の理想的な大学が開かれた。しかも宿泊を共にすることによって、思索に集中できる夜が授業に活用できるという、これまで思っても実現し得なかった「夜の大学」もそこには存在していた。まさにこれは「見えない大学」のある種の具現化であつた。

* * *

たし、ゲストの日本航空津崎武司氏も次々にチャートを掲げて、航空界の興味深いエピソードを述べられるなど、実学的なセミナーらしい魅力をつくり出されていた。

会期中、在泊し全体指導にあたられ、学生から校長先生と名付けられた八十島先生を中心に、企画、運営の細部にわたって終始心がこぼられた。運営委員長の乾先生のご努力で主題、内容とも大学共同セミナーにまた一つ新しい型が生まれたようである。

第一回大学教員懇談会

昭和45年9月19・20日



ジベート氏と通訳の小塩先生

大学改革問題をテーマとする教員グループのセミナーが、九月一九、二〇日の両日、開催された。このセミナーは、大学共同セミナーの一環として計画したものであり、今回は初めての試みであったので、当ハウスの協力会員校の先生方をお招きしたところ、二六大学、六六名の参加を得て盛会裡にプログラムを進めることができた。

大学紛争に苦悩した経験を持つ国公立の大学の教師が相集い、紛争の要因を再検討し、大学問題を自らの問題として語り合うこと

は、ようやく学園の静かになりつつあるこの時点でこそ極めて緊要である、との認識からこの企画は生まれたわけであるが、たまたま当ハウスともかわりの深いチュービンゲン大学の学生局長フェーデル・ジベート氏が来日中であつたことも、計画の具体化の発端でもあつた。会は、本会の運営委員長鈴木皇先生の司会で進行され、増田館長の開会あいさつの後、ジベート氏が小塩節先生の明快な通訳によつて、いかにも実務家らしく豊富な事例をもつてドイツの実状を紹介された。続いて行なわれたシンポジウム「日本における大学改革の反省と展望」は、同氏の講演によつて討論の興行がいつそう深くなつたようである。シンポジウムの発題は次の通りである。

- ◇大学の変遷とカリキュラムの方向
 - 津田塾大学教授 井門富二夫氏
 - ◇一般教育・外国語教育について
 - 理想の大学など
 - 東京大学教養学部助教授 芳賀 徹氏
 - ◇東工大の改革案の実状―主としてカリキュラムをめぐつて
 - 東京工業大学教授 慶伊富長氏
 - ◇大学の管理運営について

早稲田大学教授 中村 浩三氏
◇同右

慶応義塾大学教授 山本敏夫氏
◇大学改革の諸問題

東京大学助教授 石井 紫郎氏
第二日目は、前日のシンポジウムの発題の内容にしたがつて三部門に分かれたが、会場を講堂に設営し、所属を一つの部会に限定することなく他の部会に適宜自由に移動できるようにした。したがつて、この時間、各部会の出席者はハッキリしないが、教育・カリキュラム部門に三〇名前後の先生方が集つていたのが目立っていた。各分科会の様子は、全体討議に先だつて各々報告されたが、この討議の終末に参加者から一様に「このような大学内の懇談の機会を今後もち続けていきたい」という声があがり、主催者にはまことにありがたい結論が出たところでこの会を閉じることができた。

(参加者)

- 六六名
- 慶大(六)、東大(五)、明大(五)
- 専大(四)、早大(四)、中大(四)
- 上智大(四)、農工大(三)、電通大(三)、成蹊大(三)、ICU
- (三)、東京学芸大(二)、お茶の水大(二)、日大(二)、東京女子大(二)、武蔵工大(二)、津田塾大(二)、共立女子大(二)、東京経大(二)、東京教育大、横浜国大、都立大、東京慈恵会医科大、東京理大、東洋大(各一名)

要 望 書

財団法人大学セミナー・ハウス
理事長 高村象平殿
館長 増田四郎殿
企画委員長 松田智雄殿
一九七〇年一月一二日

大学教員懇談会参加者一同
去る九月一九、二〇日チュービンゲン Studentwerk の事務局長 Steinhilber 氏の来訪を機として催された大学教員懇談会は、主として教育(カリキュラム)、管理運営制度、ドイツの大学改革の三問題をめぐつて、報告、分団討議、全体討議を行ないました。

何分、時間が充分でありませんでしたので、基本的問題、たとえば人間の尊重と学問の追求、個性の自由な発展と社会的規制などについては充分議論できませんでした。しかしながら、大学の教員が現場で直面しているさまざまな問題について、新しい試みや、旧来

の慣習への反省などが熱心に語り合われました。そして何よりも当面する問題について、国公立の別、あるいは各専門分野の差異をこえて、直接相互に語り合うことがいかに重要であるか痛感されました。すでに多様な見解が各種刊行物によつて広く世間に流布されてはいますが、直接に膝を交えて意見を交換し、可能なことは逐次実現していくことが緊急必須であることに参加者一同共感しました。

▽▽▽ 第一回 大学教員懇談会記録 △△△

主な内容……七五ページ

一、講演

- 「ドイツの大学改革について」
チュービンゲン大学学生局長 フェーデル・ジベート
- 二、シンポジウム
- 「日本における大学改革の反省と展望」

三、全体討議

「分科会報告」

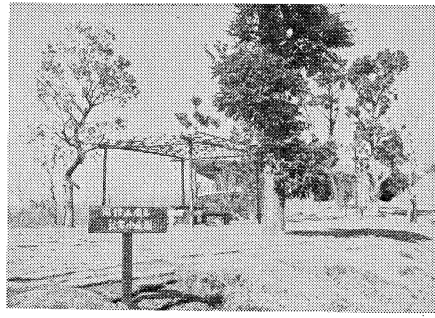
- ①学生・厚生部門
 - ②教育・カリキュラム部門
 - ③管理・運営部門
- 入手ご希望の向きには、実費二〇〇円(送料別)で頒布いたしますので、お申し越し下さい。

寄付金報告

昭和45年4月~12月
ご支援を感謝して、拝受いたしました。次にご来館の折には指定寄付の行方を確認して下さい。

〔一般寄付者芳名〕

- 一〇、〇〇〇円 法政大学 良知ゼミ殿
- 二、〇〇〇円 上智大学 経済学部殿
- 一〇、〇〇〇円 都立大学心理学研究室殿
- 一〇、〇〇〇円 職業訓練大学校殿
- 一、〇〇〇円 学習院大学 児玉ゼミ殿
- 一〇、〇〇〇円 八王子市 飯田厚子殿
- 五、〇〇〇円 旧職員 西 快子殿
- 一、〇〇〇円 青山学院大学 原ゼミ殿
- 一、二〇〇円 日本女子大学 吉田園子殿
- 同 萩原清子殿
- 四、〇〇〇円 C F O 殿
- 三、〇〇〇円 東邦大学 本吉ゼミ殿
- 一〇、〇〇〇円 大聖病院 理事長殿
- 二、〇〇〇円 立正大学 杉沢ゼミ殿
- 二、〇〇〇円 早大OB 岩橋宜隆殿
- 二、〇〇〇円 生化学工業株式会社殿
- 一〇、〇〇〇円 日本航空電子工業株式会社殿
- 三〇、〇〇〇円 慶応大学 西川ゼミ殿
- 二、五三〇円



開館五周年記念小庭園

講堂と松下館との間に、芝生と藤棚、それに椎の太木を植えた小庭園ができた。一月の記念式典にやっとなに合わせたが、春ともなれば、この芝生は学生たちの憩いの場所になるであろう。藤が、うまく根づけば、来春は美しい花が見られるであろう。五周年を記念してつくった二五万円の庭園であるが、キャンパスの中で最も人工と自然が調和した庭らしい場所である。

◆開館五周年記念式典に

列席して

川喜田 愛郎

よいお仕事のいわば「中間報告」をまのあたり拝見する機会に恵まれ幸とも感じ、またともにお喜びしたい気持ちでした。これまで、どちらかと言えば御縁が薄く、何のお手伝いもできなかったことが残念でもあり、申訳なくもありませんが、今後小生でもお役に立つこと

とがあればできるだけのことばさせていただきます。考えております。お仕事が進みます充実したものであることを祈っております。

▽付記△

昭和四五年一月一八日付で専務理事宛に下さった川喜田先生のお手紙の中から一部を掲載させていただきます。川喜田先生は開館五周年記念講演「現代の学問的状况」を下さいました。

(講演概要は前号に掲載)

- 一、九五〇円 成蹊大学 宇野ゼミ殿
- 二、〇〇〇円 町田市 大熊 実殿
- 〔指定寄付者芳名〕
- (植樹基金)
- 三、〇〇〇円 拓殖大学 赤松ゼミ殿
- 二〇、〇〇〇円 市光工業株式会社殿
- 六、〇〇〇円 明治大学 内田ゼミ殿
- 五、〇〇〇円 東京YWCA学院殿
- 一、〇〇〇円 甲府市 山田基男殿
- 五、〇〇〇円 山梨英和短期大学殿
- 七、四五五円 第二八回大学共同セミナー殿
- 二〇、〇〇〇円 日本電信電話公社電通研殿
- 五、〇〇〇円 東京大学 行人会殿
- 六、四六〇円 第二九回大学共同セミナー殿

■好評の開館五周年記念論集『西洋と日本』

『読売』書評(45・11・23)は共同セミナーの内容を、ふつうの大学の講義や放送の教養番組とちがって、その道の権威者の講義一きまじめな堅い講義でなく、セミナーにふさわしい談話一であるとして、本書に収録された三つの評について、それぞれ別の視点に詳しく触れ、研究からじみ出したことに有益であると結んでいる。『毎日』余録(46・1・1)は七〇年代の日本人の課題を、世界の人々にも通用する思考と行動の習得であるという年頭に当たってのメッセージを掲げ、その中で「日本人とは？」という問いかけをしなから中村教授の「日本人の思维方法」を引用して評されたこと早、このようにして評されたことは、とりもなおさず五周年記念論集としての本書の出版が時宜にかなった企画であったことを示すものだろう。

- 一〇、〇〇〇円 E I L 殿
- 五、六〇〇円 大学英语教育学会殿
- 七、七七〇円 第三〇回大学共同セミナー殿
- 九、三九九円 全国高校家庭クラブ 指導者養成講座殿
- 一〇、〇〇〇円 呉市 奥 謙殿
- 一〇、〇〇〇円 オリエント学生会殿
- 一〇、〇〇〇円 大学教員懇談会殿
- 五、〇〇〇円 セミナーハウス職員 飯田能子殿
- 五、〇〇〇円 セミナーハウス職員 桐生富久殿
- 五、五〇〇円 学生 安達忠夫殿
- (図書購入基金)
- 二、〇〇〇円 日本印刷技術協会殿
- 一〇、〇〇〇円 上智大学英语科学会殿
- 三九、〇〇〇円 村越造園殿
- 八、〇〇〇円 第三回大学共同セミナー参加講師殿
- (職員退職金基金)
- 四七、二八〇円 旧職員 三保文江殿
- (講堂スクリーン設置基金)
- 一五、七〇六円 慶応大学・東京大学、医学部 耳鼻咽喉科第一回集団会殿
- (パイプオルガン基金)
- 一〇、〇〇〇円 東京大学助教授杉山好と 杉の子クライス殿
- 三、〇一五円

業務通信



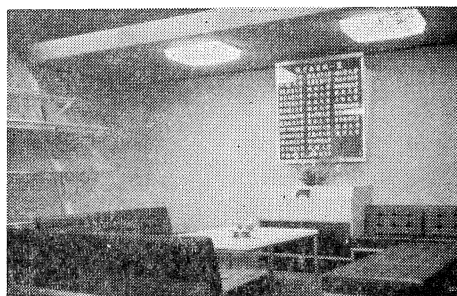
長期研修セミナー館が五月に竣工したのにつづいて、宿舍村のペンキ塗替、講堂マイクの充実、玄関ロビーの模様替、五周年記念行事、寄付によるピアノ購入、ボイラー補修工事が行なわれた。

さらに、前年度からの引続いで残りの土地の買収も終了、地主伊藤勝造氏が寄付された見事な杉林の森林公園。これには長男である日本大学三年生の強い進言によったもの、というエピソードもある。



ここ多摩の森……美しい樹木

この杉林も昨秋来きれいに除草され水路も改修、現在は森林公園の感さである。ここでは野趣に満



装いも新たな本館1階ロビー

ちたいもやきパーティーが二回行なわれたが、いもやきゼミの申込みがあったとかなかったとか、受付係も忙しい。やがて散歩道ができ、ベンチでも作られれば夏の林間教室に最適となるであろう。施設面でも五周年にふさわしい充実した年だったといえる。

内容的にみた場合、例年七月、八月は大人数の長期利用が多いが、本年度も大学英语教育学会、国際生活体験委員会などが数週間にあわたり有意義に利用された。

また、一月の早稲田大学の碧稲会(川原栄峰先生)、二月の上智大学の学内共同セミナー(マタイス先生)はいずれも学部を超えた学内の教授、学生との交流で、いづれも二泊三日、はたから見ても楽しい合宿である。

学会の利用も多く、七月には応用物理学会、耳鼻咽喉学会、九月

には物理学会の格子欠陥会議、一月はオリエント学会、一月は分子生物学会、文部省留學生課主催セミナー、二月は文学教育研究者集団、私大連盟就職事務セミナー、一月は日本山岳協会学術セミナー、二月は強誘電体合同研究会、文部省主催厚生補導セミナー、日本自然保護協会セミナーが行なわれ、三月には若手研究者による日本科学者会議が決定している。もちろん秋から冬にかけて一般のゼミナールも活発に行なわれており、一ヵ月平均五〇の大小のグループが利用、三月は第三六回大

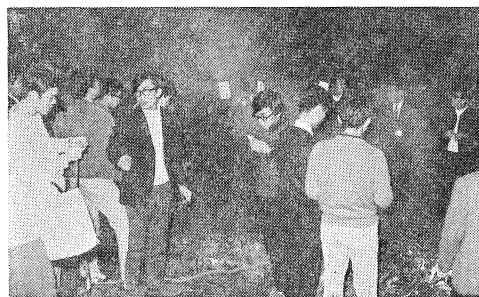
学共同セミナーを含め、目下五〇の団体の予約があり本年度を終了することになるが、年度末を待たず最高利用校は東京都立大学(四一二月・四二回)となるもよう。

◎ 新年度予約状況

四、五、六月は新入学生のオリエンテーションに多く利用される。全学を数回に分けて行なう東京医科歯科大学、東京学芸大学、津田塾大学、東邦大学等がそれぞれある。毎回とも行なわれる津田塾大学学長主催のお茶の会は当ハウス職員までも愉しくしてくれる催しである。なんとなれば、おいしなおまんじゅうが沢山、四階の食堂から降りてくるからである。次に学部、学科単独で利用される大学も多い。これら大規模の予約は大体昨秋に完了されており、四・五・六・七の四ヵ月の土、日曜

料金改正表 (四月一日より実施)

▼食料料金	
朝食	一五〇円(一三〇円)
昼食	二五〇円(二〇〇円)
夕食	三〇〇円(二五〇円)
合計	七〇〇円(五八〇円)
▼宿舍一泊料金	
ユニットハウス	
会員校	
学生	六五〇円(五七〇円)
教師	八五〇円(七七〇円)
非会員校	
学生	七〇〇円(六二〇円)
教師	九〇〇円(八二〇円)
長期研修セミナー館	
会員校	
学生	七二〇円(六七〇円)
教師	九〇〇円(八七〇円)
非会員校	
学生	八〇〇円(七二〇円)
教師	九五〇円(九二〇円)
ただし野村記念セミナー室は、無料となる。	
教師館、ゲストルーム	
大学関係については据置き	
▼施設使用料金(セミナー室等)	
会員校は無料	
非会員校についても据置き	
() 内旧料金	



森の中でのいも焼きもまた楽し

は全部ふさがっている。ベッドに余裕があっても、セミナー室に限度があるので、その調整がむずかしい。取容人数に対する現在の予約は

- 四月……………五〇%
 - 五月……………四〇%
 - 六月……………一五%
 - 七月……………四〇%
 - 八月……………七〇%
- となっている。(二月七日)

◎ キャンセルについて

食堂を含めて吾々の一番怖ろしいのは突然の解約と大幅の利用人数減少である。一ヵ月以内の申し出では、その穴埋めは不可能に近い。四月より十二月までの解約は団体数で三一、六四四名、減少数は約一、五〇〇名である。定食制の食堂は予約した生鮮材料の処置に眼をつぶるどころか、涙を流すのである。利用者側において十分な配慮を賜りたいのである。

利用状況

……七月

法政大学教授	森戸 太郎	青山学院大学助教授	原 豊	東京大学教授	青井 和夫	津田塾大学講師	南塚 信吾	早稲田大学講師	北野 弘久
東京経済大学教授	荒川 幾男	東京工業大学教授	永井陽之助	慶応義塾大学ITC	江野沢一嘉	東洋大学教授	田中 陽児	慶応義塾大学教授	中村 勝巳
武蔵大学教授	横山 定雄	東京YWCA研修会	明治学院大学助教授	青山学院大学助教授	関田 寛雄	蒲田教会修養会	田中 陽児	聖路加看護大学講師	大段 智亮
国際生活体験協会	真木 雪子	明治学院大学助教授	高野 史郎	埼玉大学助手	関田 正昭	国際学生技術研修協会	風岡 浩	青山学院大学教授	神山 妙子
日本女子大学助教授	古沢 頼雄	奈良女子大学助教授	辻田右左男	国立音楽大学講師	荒川 有史	鶴見女子大学助教授	井村 君江	東京経済大学助教授	箸方 幹逸
お茶の水女子大学新入生セミナー	遠藤 卓夫	応用物理学会	吉沢 英子	富士電機製造勤労研修会	千代田運輸運転士研修会	津田塾大学教授	小野山卓爾	中央大学助教授	笹原 昭五
日本女子大学教授	波多江健郎	日本女子大学教授	吉沢 信一	全国高校家庭クラブ連盟	日本女子大学助教授	韓日キリスト者友和の会	西田 美昭	東京経済大学講師	橋口 英俊
工学院大学教授	波多江健郎	立教大学教授	武沢 信一	千代田運輸運転士研修会	日本女子大学助教授	一橋大学助手	西田 美昭	順天堂大学教授	水野 重光
北海道拓殖銀行青婦人部研修会	波多江健郎	立教大学教授	武沢 信一	日本女子大学助教授	小川 信子	日本金属工業人研修会	西田 美昭	成蹊大学教授	宇野 重昭
上智大学内セミナー	波多江健郎	光印刷研修会	吉沢 信一	前橋市立工業短大教授	持田照夫	東京スクールオブビジネス	廣瀬 鎌二	独協大学教授	伊藤 隆吉
東京女子大短大部講師	丹下敏子	順天堂大学教授	山本 幹夫	東京都立大学助教授	桐敷真次郎	武蔵工業大学教授	竹内 良夫	東京教育大学助教授	松尾 禎士
東京都立商科短大教授	小松良郎	早稲田大学教授	村松林太郎	東京都立大学助教授	桐敷真次郎	東洋大学助教授	竹内 良夫	東京学芸大学教授	辰見 敏夫
慶応義塾大学講師	師岡 孝次	東京経済大学教授	吉村 寿	松原教会夏期修養会	松原教会夏期修養会	明治学院大学教授	重田 信一	日本女子大学附属高等学校	
東京都立大学教授	沼田稻次郎	東京経済大学教授	吉村 寿	日本女子大学教授	一番ヶ瀬康子	明治学院大学助教授	長谷川政美	白梅学園短大教授	井手 則雄
明治学院大学助教授	竹内 真一	東京経済大学教授	吉村 寿	日本印刷技術協会管理者研修会	日本印刷技術協会	東京都立大学助教授	大住 栄治	法政大学講師	土方 保
明治学院大学助教授	神保 信一	東京工業大学助教授	山田 圭一	日本印刷技術協会	片山 清一	拓殖大学助教授	赤松 要	東京都立大学教授	鈴木 二郎
東京工業大学助教授	稲山 貞登	日本大学講師	小田中敏男	早大工学大合同セミナー	森藤 一男	東大独協大合同セミナー	倉沢 進	立教大学助教授	大木 英夫
関東学院大学助教授	折橋 徹彦	日本大学講師	小田中敏男	早大工学大合同セミナー	森藤 一男	東大独協大合同セミナー	倉沢 進	立教大学助教授	大木 英夫
アスター精機研修会	折橋 徹彦	国際基督教大学講師	今川 健	早大工学大合同セミナー	森藤 一男	東大独協大合同セミナー	倉沢 進	立教大学助教授	大木 英夫
早稲田大学生産研究所	浮田忠之進	産業能率短大助教授	今川 健	早大工学大合同セミナー	森藤 一男	東大独協大合同セミナー	倉沢 進	立教大学助教授	大木 英夫
東京女子大学教授	前田 加奈	慶応義塾大学助手	野口 晃	早大工学大合同セミナー	森藤 一男	東大独協大合同セミナー	倉沢 進	立教大学助教授	大木 英夫
慈恵会医科大学講師	日野原 正	東京外語大学共同セミナー	野口 晃	早大工学大合同セミナー	森藤 一男	東大独協大合同セミナー	倉沢 進	立教大学助教授	大木 英夫
東京都立大学教授	泉 三義	東京外語大学共同セミナー	野口 晃	早大工学大合同セミナー	森藤 一男	東大独協大合同セミナー	倉沢 進	立教大学助教授	大木 英夫
カオス会	四宮 和夫	東京外語大学共同セミナー	野口 晃	早大工学大合同セミナー	森藤 一男	東大独協大合同セミナー	倉沢 進	立教大学助教授	大木 英夫
東京都立大学助教授	伊藤 直明	東京外語大学共同セミナー	野口 晃	早大工学大合同セミナー	森藤 一男	東大独協大合同セミナー	倉沢 進	立教大学助教授	大木 英夫
大学英語教育学会夏期セミナー	伊藤 直明	東京外語大学共同セミナー	野口 晃	早大工学大合同セミナー	森藤 一男	東大独協大合同セミナー	倉沢 進	立教大学助教授	大木 英夫
日本女子大学教授	杉溪 一言	東京外語大学共同セミナー	野口 晃	早大工学大合同セミナー	森藤 一男	東大独協大合同セミナー	倉沢 進	立教大学助教授	大木 英夫
専修大学助教授	加藤 克己	東京外語大学共同セミナー	野口 晃	早大工学大合同セミナー	森藤 一男	東大独協大合同セミナー	倉沢 進	立教大学助教授	大木 英夫
立教大学助教授	大橋 泰二	東京外語大学共同セミナー	野口 晃	早大工学大合同セミナー	森藤 一男	東大独協大合同セミナー	倉沢 進	立教大学助教授	大木 英夫

……八月

……九月

早稲田大学講師	久米 稔	田村電機教育訓練	立教大学助教	井田喜久治	東京大学助教	松田 智雄
慶応大学助教	深海 博明	東京家政学院大講師	一橋大学助教	藤沼 謙一	中央大学学生相談室	水本 浩
東京都立大学助教	小沢 有作	東京都立工業短大ガイダンス	慶応義塾大学助教	富田 重夫	保育園連盟就学前教育セミナー	横山 宏
成蹊大学助教	武田 昌輔	東京都立工業短大外研修	成蹊大学助教	松本 雅男	東京都立大学助教	
富士電機寮監研修会		東京大学助教	東京大学宇宙航空研究所	平田次三郎	東京学芸大学助教	
東京都立大学助教	松浪 有	日本オリエント学会第十二回大会	中央大学助教	小林 孝輔	法政大学講師	
中央大学経済ゼミナール協議会		松本享英語教育研究会	立教大学助教	三宅 義夫	法政大学不動産鑑定研究会	
電電公社緑会聖書研究会		川鉄商事課長研修会	中央信用金庫代理研修会	三橋 文雄	中央大学通信教育部法学ゼミ	
日本物理学会格子欠陥会議		法政大学教授	早稲田大学講師	中根甚一郎	中央大学助教	
法政大学教授	栢野 晴天	東京学芸大学助教	東京学芸大学助教	三橋 文雄	一橋大学助教	
早稲田大学講師		東京学芸大学助教	東京工業大学助教	松田 武彦	東京都立大学助教	
学習院大学教授	末松 保和	日本印刷技術協会東京地区管理者	東京学芸大学助教	三橋 文雄	一橋大学助教	
東京大学助教	有馬 朗人	セミナー	日本印刷技術協会第五回学生公開講座	千葉 正士	白百合学園高校修養会	
東京学芸大学助教	松原 元一	日本機械学会	東京都立大学助教	岡本 栄一	東京都立大学助教	
東京都新都市開発公社		東京都立大学助教	日本女子大学講師	岡本 栄一	東京学芸大学助教	
高幡伝道所修養会		東京都立大学助教	東京女子大学講師	柳沢 富雄	品川燃料新入社員二次研修会	
鶴川住宅管理組合		東京女子大学助教	東京女子大学助教	柳沢 富雄	品川燃料新入社員二次研修会	
.....十月		品川燃料新入社員二次研修会	品川燃料新入社員二次研修会	鈴木 真喜男	品川燃料新入社員二次研修会	
東京学芸大学助教	大村 興道	共立女子大学大学祭実行委員会	東京学芸大学助教	鈴木 真喜男	品川燃料新入社員二次研修会	
共立女子大学大学祭実行委員会		東京学芸大学助教	東京学芸大学助教	鈴木 真喜男	品川燃料新入社員二次研修会	
東京工業大学助教	原 芳男	慶応義塾大学助教	慶応義塾大学助教	池井 優	東京学芸大学助教	
明治学院大学助教	増田 茂樹	第三一回大学共同セミナー	電電公社関東電気通信局計画部	中村 孝俊	法政大学助教	
本州製紙発想まとめ手法研究会		法政大学助教	法政大学助教	中村 孝俊	法政大学助教	
仙川教会聖書研究会	宮田 幸一	日本水産セールのプロモーション研究会	法政大学助教	中村 孝俊	法政大学助教	
鶴見女子大学助教	鶴見 和子	法政大学助教	法政大学助教	磯田 裕二	法政大学助教	
上智大学助教		法政大学助教	法政大学助教	磯田 裕二	法政大学助教	
東京都立大学助教	野間 三郎	法政大学助教	法政大学助教	磯田 裕二	法政大学助教	
東京工業大学助教	山田 圭一	慶応義塾大学講師	慶応義塾大学講師	安達 和夫	慶応義塾大学講師	
早稲田大学助教	中尾 清秋	東京都立大学助教	東京都立大学助教	奥山 典生	東京都立大学助教	
東京工業大学助教	龜山 貞登	日本電気営業部員教育	日本電気営業部員教育	奥山 典生	東京都立大学助教	
明治学院大学助教	天達 忠雄	独協大学講師	G・リンツビヒラ	稲垣富士男	中央大学講師	
日本ワークデザイン協会研修会		中央大学講師	G・リンツビヒラ	稲垣富士男	中央大学講師	
武蔵大学助教	中村 瑞穂	日本印刷技術協会職員研修会	日本印刷技術協会職員研修会	関口 武	東京教育大学助教	
明星大学助教	加藤 長雄	田村電機職務評価研修会	田村電機職務評価研修会	関口 武	東京教育大学助教	
品川燃料新入社員二次研修会		立教大学助教	井田喜久治	松田 智雄	東京大学助教	
		一橋大学助教	藤沼 謙一	水本 浩	中央大学学生相談室	
		慶応義塾大学助教	富田 重夫	横山 宏	保育園連盟就学前教育セミナー	
		成蹊大学助教	松本 雅男		東京都立大学助教	
		東京大学宇宙航空研究所	平田次三郎		東京学芸大学助教	
		中央大学助教	小林 孝輔		法政大学講師	
		青山学院大学助教	法政大学不動産鑑定研究会		法政大学講師	
		ナショナル立川営業所十一月		法政大学講師	
			中央大学通信教育部法学ゼミ		法政大学講師	
			中央大学助教		法政大学講師	
			一橋大学助教		法政大学講師	
			東京都立大学助教		法政大学講師	
			白百合学園高校修養会		法政大学講師	
			東京都立大学助教		法政大学講師	
			法政大学助教		法政大学講師	
			大橋智之輔		法政大学講師	
			東京YWCA青年会議		法政大学講師	
			青山学院大学英語劇研究部		法政大学講師	
			早稲田大学助教		法政大学講師	
			鈴木 二郎		法政大学講師	
			東京告白教会聖書研究		法政大学講師	
			早稲田大学助教		法政大学講師	
			伊東 克巳		法政大学講師	
			小西六写真工業長期計画研修会		法政大学講師	
			中央信用金庫係長研修会		法政大学講師	
			早稲田大学碧稲会教授学生交歓会		法政大学講師	
			慶応義塾大学教授		法政大学講師	
			内山 正熊		法政大学講師	
			植崎産業初級管理者研修		法政大学講師	
			竹の会武家社会の研究		法政大学講師	
			文京女子短期大学英語英文学科		法政大学講師	
			東京都立大学助教		法政大学講師	
			大羽 滋		法政大学講師	
			東京大学助教		法政大学講師	
			中央大学学生相談室		法政大学講師	
			保育園連盟就学前教育セミナー		法政大学講師	
			東京都立大学助教		法政大学講師	
			千葉 正士		法政大学講師	
			東京学芸大学助教		法政大学講師	
			堀口 俊一		法政大学講師	
			法政大学講師		法政大学講師	
			野林 正路		法政大学講師	
			小竹 豊治		法政大学講師	
			慶応義塾大学助教		法政大学講師	
			深海 博明		法政大学講師	
			大河内暁男		法政大学講師	
			立教大学講師		法政大学講師	
			東京大学弁証法研究会		法政大学講師	
			日本生産性本部生産性青年教育		法政大学講師	
			東京都立大学助教		法政大学講師	
			高田 清郎		法政大学講師	
			文部省留学生担当若者研修会		法政大学講師	
			金沢 孝文		法政大学講師	
			慶応義塾大学助教		法政大学講師	
			片桐 邦郎		法政大学講師	
			慶応義塾大学助教		法政大学講師	
			千住 鎮雄		法政大学講師	
			青山学院高等部修養会		法政大学講師	
			法政大学助教		法政大学講師	
			林田 不二生		法政大学講師	
			岡山 誠司		法政大学講師	
			上智大学英語学科会		法政大学講師	
			法政大学助教		法政大学講師	
			白井 慎		法政大学講師	
			東京大学助教		法政大学講師	
			岩崎代志治		法政大学講師	
			田村電機労働組合		法政大学講師	
			八南歯科医師会		法政大学講師	
			慶応義塾大学助教		法政大学講師	
			深海 博明		法政大学講師	
			内藤 正		法政大学講師	
			東京工業大学助教		法政大学講師	
			中村 菊男		法政大学講師	
			慶応義塾大学助教		法政大学講師	
			宝月 欣二		法政大学講師	
			東京都立大学助教		法政大学講師	
			成田 頼明		法政大学講師	
			横浜国立大学助教		法政大学講師	
			武蔵大学社会学関係読書会		法政大学講師	
			静電気卒研合同セミナー		法政大学講師	
			東京大学医科学研究所		法政大学講師	
			江夏美千穂		法政大学講師	
			東京経済大学助教		法政大学講師	
			分子生物学セミナー		法政大学講師	
			放電研究グループ		法政大学講師	
			東京学芸大学助教		法政大学講師	
			永野 賢		法政大学講師	

専務理事ノート

新年のご挨拶を申し上げます。私は例年は、大変おくれました。私は例年の如く松下館真理の鐘の下で、ご支援下さる多くの方々々に感謝の祈りを捧げました。聖新年元旦でした。

お年玉つき年賀はがきというのがありますが、私はすばらしいお年玉つきの年賀状を三通いいただきました。「今年から千人会に入らせていただきます」と書き添えてありました。年毎にいただく賀状の数がふえるのも、このようなお年玉をいただくのも、セミナー・ハウスの年輪でありましょう。

関西にも弟分ができるそうです。明年度六甲山上に建設される計画が進行しているからです。大学セミナーハウス一〇年の歴史の中で生まれた弟分というわけです。

私は昨年人間ドックの診察でコレステロール二七〇というのが一寸気にかかる程度で、他に異状はないといわれました。

明治学院大学助教 竹内 真一
立教大学助教 水本 浩
旧制高校懇話会 横山 宏
早稲田大学助教 横山 宏